

堺セーフシティ・プログラム シンポジウム
「みんなでつくろう、安全安心なまち SAKAI
～堺セーフシティ・プログラムの取組～」

報告書

平成29年3月12日（日）

14：00～16：00

ホテル・アゴーラ リージェンシー堺 ロイヤルホール

【プログラム】

時間	内容	登壇者 ※敬称略
13:30	開場～受付	
14:00	司会者より来賓紹介 主催者挨拶 来賓挨拶及び報告	※司会者より来賓紹介（議長、内閣府） 堺市長 竹山修身 堺市議会議長 吉川守 内閣府 男女共同参画局参画官 久保田治
	お祝いメッセージ	UN Women 事務局長 プムズィレ・ムランボ・ヌクカ
14:20	「堺セーフシティ・プログラム」 の進捗状況報告	堺市市民人権局男女共同参画推進担当部長 東條秀雄 ※報告の前に、監修の先生方のご紹介 日本大学大学院教授 池上清子 長崎県立大学シーボルト校大学院教授 李節子
14:40	協力団体からの取組報告	堺市女性団体協議会 委員長 山口典子
15:00	【講演】 「女たちが作ってきた道」	作家 谷村志穂 （朗読：山口典子、村田優芽（放送芸術学院））
16:00	閉会	

※登録手話通訳者、要約筆記者により、聴覚障害者の方に情報保障を行った。

※小さいお子様をお連れの方のために、一時託児を行った。

【参加者数 1,070人】

【シンポジウム】

(O) 開場



受付の様子

(1) 開会

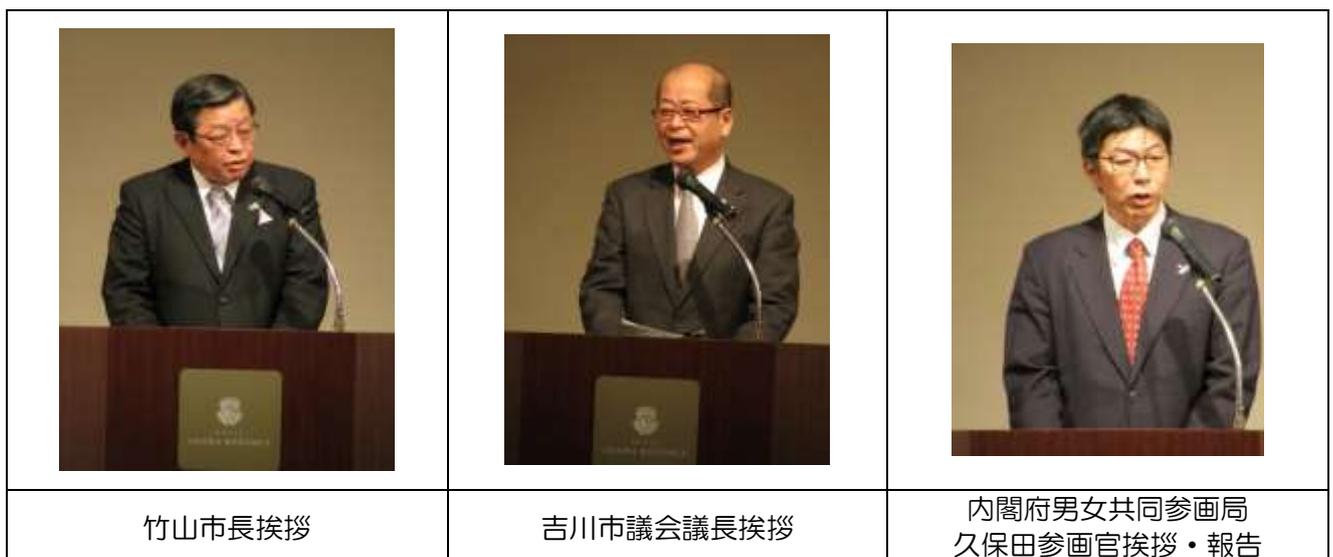


(2) 主催者・来賓挨拶

開会にあたり、主催者を代表して竹山修身市長から挨拶、来賓として吉川守市議会議長、内閣府男女共同参画局の久保田治参画官から祝辞があった。

竹山市長からは、多くの方々に参加いただいたことへの感謝と堺セーフシティ・プログラムの今後の取組への抱負が述べられた。吉川議長からは、本取組が多くの方々に理解と協力をいただいていることへの感謝と今後の期待が述べられた。久保田参画官からは、女性に対する暴力は重大な人権侵害であることから、その根絶を図り、女性が安心して暮らせる環境を整備することは、女性活躍の推進のため、また男女共同参画社会を形成していく上で、大変重要な課題であり、今後、堺市のプログラムの取組がよきモデルとなって、日本全国、世界各国に広がることへの期待が述べられた。

その後、国連 UN Women 事務局長のブムズィレ・ムランボ・ヌクカ様からいただいたメッセージを司会者から紹介した。



(3)「堺セーフシティ・プログラム」の進捗状況報告

堺セーフシティ・プログラムの進捗状況報告に先立ち、まず、本プログラムに平成 26 年度当初から監修にご協力いただいている先生方お二人の紹介を行った。最初に、日本大学大学院池上清子教授が登壇され、ご挨拶をいただいた。池上教授は、日本がこの 6 月に 2015 年国連総会で決まった SDGs（持続可能な開発目標）という 15 年間の行動計画としてパイロット国の 1 つになり、堺セーフシティ・プログラムが目標の達成に貢献をしていると述べられた。

続いて、長崎県立大学シーボルト校大学院李節子教授が登壇され、ご挨拶をいただいた。李教授は、3 年前にこの計画に協力をし始めて、まず最初に考えたのは、性暴力の問題が個人の問題ではなく、まちぐるみで解決しなければならない問題であり、みんなで考えるというところが、このプログラムの素晴らしいところであると述べられた。



日本大学大学院の池上教授



長崎県立大学シーボルト校大学院の李教授

その後、堺市男女共同参画推進担当部長の東條から、堺セーフシティ・プログラムの進捗状況についての報告を行った。報告では、これまでの経緯や堺市の現状及び平成 26 年度の『スコーピング・スタディ』・平成 27 年度の『プログラム・デザイン』の策定並びに国連への報告について説明した。また、『プログラム・デザイン』で示された 4 つの指針ごとの具体的な取組として平成 27 年度からスタートさせた『コンビニエンスストアと連携した性表現対策』及び『さかい提灯部隊』によるパトロール活動などを紹介した。



東條部長 進捗状況報告、左は手話通訳者



要約筆記の様子

(4) 協力団体からの取組報告

続いて、本取組にご協力いただいている団体からの報告として、堺市女性団体協議会委員長で、UN Women 日本事務所前特別顧問、堺市議会議員の山口典子さんから、冒頭、戦後間もない約70年前から活動を始め、女性のための会館建設やミス・コンテスト反対運動、女性専用車両の設置、女性センターでの生涯学習の開講、男女混合出席簿の実現などの活動を行ってきたことなどが述べられた。そして、同協議会が堺市において歴史的に培ってきた女性の市民活動の延長線上に現在の堺セーフシティ・プログラムの取組があるとの思いから、この間の団体の取組についての報告があった。



(5) 講演

シンポジウムの最後は、ベストセラー作家の谷村志穂さんに「女たちが作ってきた道」というテーマでご講演いただいた。

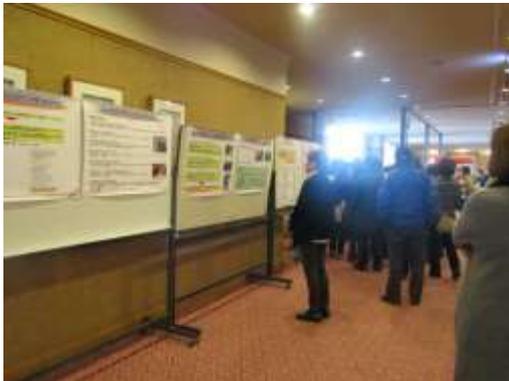
冒頭、大崎善生著の『いつかの夏』から、名古屋で母一人子一人で育った女性の会社員が帰宅途中に自宅の直前で無残な殺され方をした事件を取り上げ、このような犯罪をおこさせない取組を、堺で期待したいと述べられた。

続いて、自身の小説『大沼ワルツ』から、開拓期の北海道を舞台に、三兄弟と結婚した三姉妹の実話をもとに新しい土地で新しい人生を切り拓きながら、奮闘して生き抜いた女性たちの物語を語っていただいた。また、小説から2つのシーンを取り上げ、山口典子さんと放送芸術学院の村田優芽さんが朗読を行った。



【パネル展示、提灯部隊展示】

シンポジウム会場の外では、国際女性デーのパネル展示、本取組の事例の一つである「さかい提灯部隊によるパトロール活動」の紹介を行った。



国際女性デーのパネル展示



「さかい提灯部隊によるパトロール活動」の紹介